信濃川水系整備計画

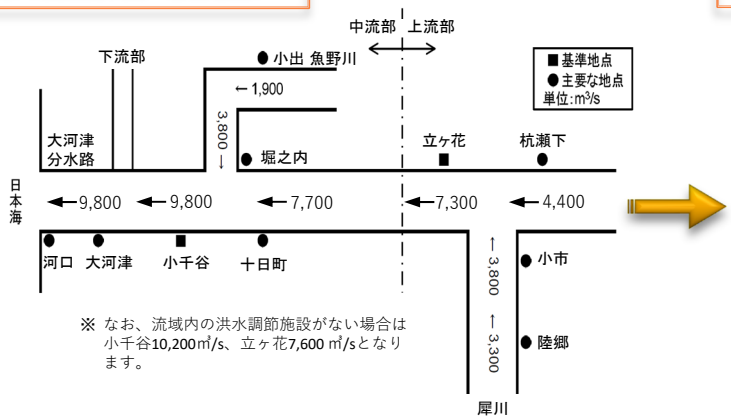
◆ 河川整備計画の目標

信濃川水系河川整備計画は今後概ね30年間の具体的な河川整備の目標や内容を示すものであり、関係住民や学識者、自治体などの意見聴取を経て平成26年1月に策定され、令和元年東日本台風による洪水の発生や気候変動を踏まえた目標流量の見直し、流域治水を踏まえた治水対策の見直しを令和4年12月に行いました。

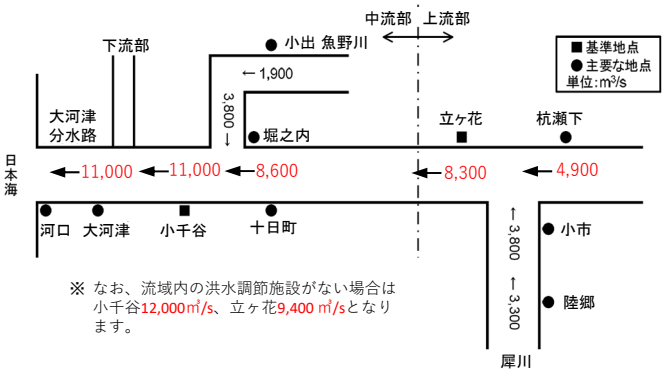
【信濃川水系整備計画変更のポイント】

- 戦後最大規模の洪水となった令和元年東日本台風洪水に対し災害の発生の防止又は軽減を図るため、整備目標の引き上げ
- 流域内の関係機関が連携して河川によるハード対策と地域連携によるソフト対策を一体的かつ緊急的に進める「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」に関する取り組みを追加
- 気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、河川の流域のあらゆる関係者が協働して流域全体で行う治水対策「流域治水」への転換を推進

河川整備計画（変更前） 令和元年8月



河川整備計画（変更後） 令和4年12月



「流域治水プロジェクト」とは

気候変動の影響による水災害リスクの増大に備えるため、あらゆる関係者が協動して流域全体で行う流域治水への転換を推進し、防災・減災が主流となる社会を目指します。

【流域のあらゆる関係者が協働して行う対策】

◆ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- 河川堤防や遊水地等の整備
- 治水ダムの建設・再生
- 雨水貯留浸透・排水施設の整備
- 砂防関係施設の整備
- 海岸保全施設の整備
- 利水ダム等の事前放流
- 利水ダムの事前放流等の判断に資する雨量予測の高度化
- 水田の貯留機能の向上
- 森林整備、治山対策
- 民間企業等による雨水貯留浸透施設の整備
- 未活用の国有地を活用した遊水地・雨水貯留浸透施設等の整備など

◆ 被害対象を減少させるための対策

- 高台まちづくりの推進（線的・面的につながった高台・建物群の創出）
- リスクが高い区域における立地抑制・移転誘導など

◆ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ハザードマップやマイタイムライン等の策定
- 要配慮者利用施設（医療機関、社会福祉施設）の浸水対策
- 渡河部の橋梁や河川に隣接する道路構造物の流失防止対策
- 地下駅等の浸水対策、鉄道橋梁の流出等防止対策
- 学校及びスポーツ施設の浸水対策による避難所機能の維持など